

小平市議会定例会一般質問通告書

再質問の方式

- 1 一括質問一括答弁方式
- ②一問一答方式

質問件名 全ての小・中学校でサポートが必要な子どもたちへの支援体制について

質問要旨 (初めに質問全体の趣旨、次に具体的な質問内容を項目別に記入してください)

2018年2月発行の改訂版小平市教育振興基本計画では、教育の目標として、1、自立、小平で基礎を培う。2、共生、小平で共に成長する。3、貢献、市民が小平を育てる。の3つの目標が掲げられています。また、施策の展開として、学校教育において、障がいのあるなしに関わらず、特別支援教育の視点に立ち、「個に応じた」支援を行うことは、すべての子どもに対し責任を負う義務教育の使命と記載されています。

小平市では2018年小学校の特別支援教室の全面実施が始まり、来年度からは中学校に特別支援教室が設置されます。今後の取り組みのために成果と課題の検証が必要です。

通常の学級に在籍する子どもたちの中には、知的発達に遅れはないものの、情緒面や社会性などで困難を抱えている子どもたちがいます。不登校や近年増えてきている外国にルーツのある子どもたちの教育環境を整えていくことも必要です。

小平市のすべての子どもたちが生きる基礎を培い共に育つために、必要な教育支援が受けられるよう以下質問します。

- 1、公立小学校で特別支援教室を利用しているのは何人ですか。2018年度2019年度の人数をお示ください。また、見えてきた成果と課題をお示ください。
- 2、公立中学校への特別支援教室設置に向けて、今年度小平第四中学校を拠点校に第二中学校、第五中学校での巡回指導が先行実施されています。中学校での特別支援教室導入にどんなことを期待しますか。
- 3、小平市特別支援教育総合推進計画後期計画では環境整備としてICTによる学習支援の充実があげられています。どのような支援を行いましたか。その成果と課題についてお示ください。
- 4、外国にルーツがあり日本語が苦手などの困難を抱える子どもたちに対してもきめ細やかな対応が必要です。どのような支援を行っていますか。
- 5、公立小・中学校で不登校になっている子どもたちは何人いますか。どのようなサポートをしていますか。
- 6、学習が著しく遅れている子どもへのサポート体制について、日野市発達・教育支援センターエールでは教科学習が困難な子どもに個別の学習指導を行っています。小平市でも同様の支援が必要と考えますが、見解は。
- 7、さまざまなニーズに合わせて支援をしていくには、サポート体制を整えることが大切です。中でも人員の確保が必要と考えますが、見解をお示ください。

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

令和元年 8月 26日 小平市議会議長 殿 小平市議会議員 氏名 さとう 悦子

受付番号【 】

26	25	24	23

-(/)